

革新懇の三つの共同目標

- ① 経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ② 憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③ 日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

鳥取県革新懇ニュース

No.48
2015年
9月10日

〒680-0811 鳥取県鳥取市西品治806(鳥取県労連気付)
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

1500人が「いけん」大合唱

安保法案廃案求め 鳥取県民大集会

鳥取県弁護士会は8月2日、鳥取市の久松公園で安全保障関連法案に反対する集会を開催しました。猛暑の中、さまざまな団体や市民約1500人が集まり、「いけん」(ダメと違憲をかけたもの)と書かれた紙を一齐に掲げて反対をアピール。法案に対する県民の不安の大きさを示す集会となりました。

集会では、県弁護士会の足立珠希会長が、「安保法案は違憲。数の力で通そうとしているが、明らかに立憲主義に反する。県民一体となって安保法案反対の声を国会に届けよう」と挨拶。メインス

ピーカーとして、衆院憲法審査会で安保関連法案を「憲法違反」と指摘した小林節・慶応大学名誉教授が講演しました。小林氏は、「安保関連法案が成立すると、アメリカの二軍として

戦争に参加し、我々の仲間、家族が人を殺して殺されて遺体として帰ってくる。安倍首相は難しい言葉で国民をだまそうとしていたが、国民は違憲だと気づいた。政権交代させないとこの国は本当に滅ぶ。野党が選挙協力して政権を変えることが必要」と訴えました。集会では大学生や子育て中の母親などが登壇してリレートーク。鳥取大学の学生は、学生や若者で戦争法案に反対して抗議行動やデ

モ行進したことを報告し、「日本は一部の政治家が勝手にものごとを決める独裁国家になっている。僕たちが声を上げ、民主主義や平和を守ることが大切だと思う」と述べ、大きな拍手を受けました。元自衛隊員の男性は、「この法案に誰よりも反対しているのは自衛官だと思う。でも声を上げることはできない。自衛隊はガラスケイスの中の日本刀のように、憲法9条というケースの中にいるからこそ、人を傷つけることができない」と法案反対を訴え、安保関連法案に反対するママの会とつとり(とつとりママの会)の女性は、「三人の子どもの母親です。ガーベラの花弁をかたどった色紙に法案に対するママたちの思い、未来への希望について書いてもらっています」と述べ、「たいへんな思いで子どもを産みました。戦争で誰かを殺したり、殺されたことがあります。殺さずと守っていくと約束したわが子を守りたい」など、母親たちの声を紹介しました。



いっせいに「いけん」を掲げる参加者(上) 講演する小林節氏(下)



集会後、参加者は「安保法案は廃案に」など



マスメディアの今を考える フォーラムに2000人

NHKの経営委員や会長人事をはじめ、政権に批判的な報道を抑制しようとするさまざまな動きなど、メディアに対する政府・与党の圧力が強まっている状況を受けて、「マスメディアの今を考えるフォーラム」が9月6日、北栄町で開催されました。「マスメディアの今を考えるフォーラム実行委員会」が主催したもので、元NHKディレクターの池田恵理子さんが、「戦後70年、マスメディアと権力は今」と題して講演を行いました。

池田さんは、戦争をめぐる激論のなかで、安倍首相に代表される歴史修正主義者が、この20年余りの間にどのように世論をコントロールしようとしてきたかを点検する必要があるとし、彼らの思想と行動を端的に表すのが、「慰安婦」問題の紆余曲折の歴史に他ならないと指摘。

「慰安婦」問題を切り口に、安倍首相が進めてきた世論誘導とNHK支配について紹介し、マスメディアの果たすべき役割と、今、私たちに問われていることについて問題提起しました。

「慰安婦」問題を歴史の記憶から消そうとした右派の政治家や文化人と、彼らが用いた手法について池田さん



基調講演する池田恵理子さん 9月6日、北栄町

は、ファシズム体制への移行には「教育」と「報道」の支配が不可欠だという歴史に照らし、安倍首相の政治家としての歩みは、それを如実に物語っている

と指摘しながら、「新しい教科書をつくる会」や「日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会」(事務局長は安倍晋三議員・当時)などによる教科書攻撃と、「慰安婦」報道への政治介入、具体例として、当時官房長官だった安倍晋三氏らによるNHKの番組改編問題を紹介。そして、安倍首相が政権に復帰後、南京大虐殺否定論者の百田尚樹氏や明治憲法信奉者の長谷川三千子氏を含む「お友達」4人をNHKの経営委員に送り込み、会長に舛井勝人氏を選任させたことで、政権に寄り添う偏向報道が目立ち始めていることを問題視していると訴え、元NHK職員による舛井会長の罷免を求める取り組みなどを紹介しました。



最後に池田さんは、「今や『慰安婦』被害を否定して歴史を偽造しようとする歴史修正主義者との闘いは、戦争へ歩みを進めようとしている政権との闘いになってきた。権力の監視と戦争をさせないことがジャーナリズムの役割。ここで闘いを続けなければ本場に大変なことになる。」と強調し、「良い番組には激励し、悪いものには抗議を。これはNHKだけでなくメディア全体に言えること。みなさんもこうした取り組みを強めてほしい。」と結びました。

戦争法案 共同広がる各地の取り組み

「戦争法案」と呼ばれる安全保障関連法案は、衆院で強行採決され、現在参院で審議されています。しかし、国民の反対運動は収まるどころか、むしろの広がりをみせ、各地でデモや集会が開かれています。法案の持つ危険性を肌感覚で感じ取った学生をはじめ、多くの市民団体が活動を強め、安倍政権を追い詰めています。県内でも、8月2日の県民大集会など、全国的な運動と連帯して各地でさまざまな取り組みが行われ、共同が広がっています。

鳥取市。「8・30全国100万人大行動に連帯する鳥取行動実行委員会」が主催する集会が8月30日、JR鳥取駅前の風紋広場で開催され、6000人が参加しました。



鳥取市 「そうだ」のかけ声も頻繁に

■米子市。「戦争法案廃棄！安倍政権退陣！鳥取県西部集会」が8月30日、米子市ポケッパークで開催されました。主催は同実行委員会、2000人が参加しました。

■倉吉市。安保法制反対集会が8月30日、JR倉吉駅前で開催されました。主催は中部九条の会。120人が参加しました。

■日南町。8月30日、国会包囲行動に合わせ、3000人参加のイベント会場前でスタンディング。



倉吉市 倉吉駅前に120名

■境港市。8月30日、戦争展の取り組みとあわせ、国会包囲デモの午後2時に、市役所前でプラスタマーを掲げてスタンディングを行いました。



米子市 集会後、米子駅までパレード

案に追い込もう」のアピールを採択し、米子駅前までパレードしました。



日南町 イベント会場前でスタンディング



境港市 プラスタマーでアピール

県革新懇2015年度総会を開催

県革新懇は9月6日、北栄町で2015年度総会を開催しました。浜田章作代表世話人のあいさつに続き、田原勇代表世話人が活動のまとめと2015年度の課題と方針を提案。安倍暴走政治によって革新懇運動の要件・可能性が広がっているも、一点共闘とともに統一戦線の確立に向けた取り組みを強めることの重要性が強調されました。参加者から報告された各地の取り組みや経験を共有し、2015年度の方針と役員体制を確認しました。



■米子市。「戦争法案」を許さない！鳥取西部 怒りの大決起集会」が9月4日、JR米子駅前だんだん広場で開催されました。同実行委員会の主催で、小林節慶応大学名誉教授が基調講演しました。

■鳥取市。9月5日、風紋広場で「Peace For us」とつとりに開催されました。主催は同実行委員会。シンガーソングライター森田さやかさんのミニライブ、弁護士と憲法学者による安保法案の徹底解説、若者トークなどが行われました。

■9月6日、「安保法案廃棄を求める9・6鳥取県内いっせいリレートーク」が行われました。県民大集会に続いて県弁護士会が主催したもので、JR鳥取駅前風紋広場、倉吉パークスクエアふれあい広場、米子市文化ホール多目的広場で午後1時半よりいっせいに開始。個人・団体より法案廃棄をめざす強い決意が述べられました。

■米子市。「戦争法案」を許さない！鳥取西部 怒りの大決起集会」が9月4日、JR米子駅前だんだん広場で開催されました。同実行委員会の主催で、小林節慶応大学名誉教授が基調講演しました。